



the center stage

大人も子供も主体的に
楽しみ方を見つけられる。

常陸大宮のインクルーシブ・パークは
誰もが主役になれる場所。

そんな街のハブであり、市民一人一人に
フォーカスする場でありたいという願いを込め

「センターステージ」

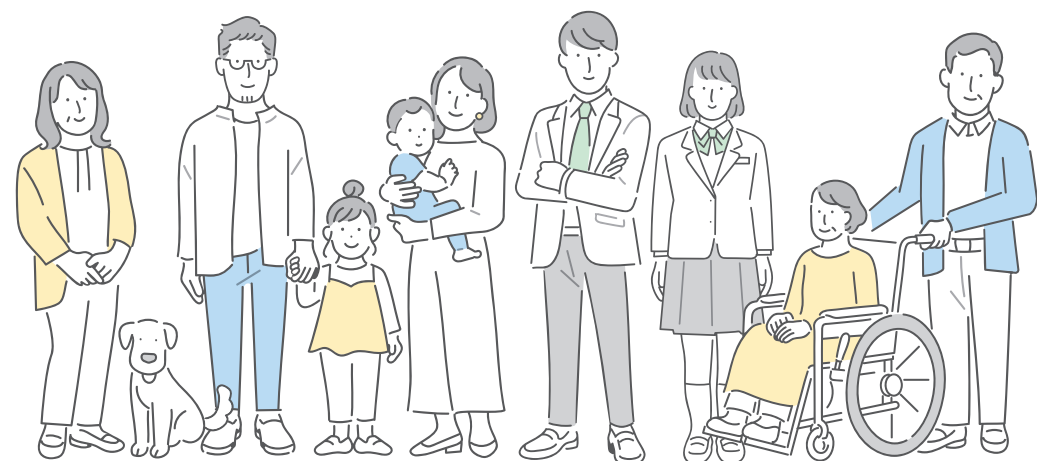
と名づけました。

- | | |
|-------------------------------|-----------------------|
| t : teenager | ▶ 少年/少女 |
| h : homemaker | ▶ 主婦/主夫 |
| e : elderly | ▶ 高齢者 |
| c : challenged | ▶ 障がい者 |
| : couple of child-bearing age | ▶ 子育て世代 |
| : child | ▶ 子供 |
| n : nomad worker | ▶ 自由な場所で仕事する人 |
| r : resident | ▶ 住民 |
| s : shopkeeper | ▶ 店主 |
| a : artist | ▶ アーティスト |
| g : generator | ▶ まちづくりのプレイングファシリテーター |

にぎわいの創出 インクルーシブ・パーク 防災機能の充実

3つの整備コンセプトを実現するための

4つの軸



1

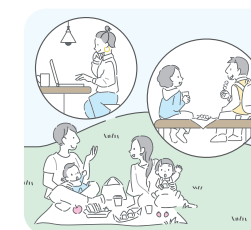
多様なアクティビティ



公園内に点在する、様々な市民に対応したワクワクするアクティビティ。子供が楽しく遊べる環境だけでなく、大人も大いにはしゃぐことができる場があれば、子育てはもっと楽しい。

2

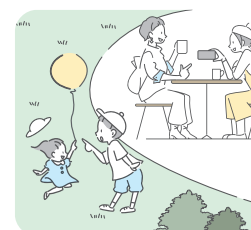
選べる居場所



オープンで解放感に溢れた広場、少し高台になって見渡せるスペース、園路のなかの休憩場所。豊かな場が多くある中で、その人にとってのお気に入りの居場所が見つかれば、ここはもっと地域に愛される場所になるはず。

3

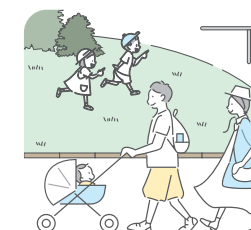
安心できる環境



心からリラックスするには、安心・安全に過ごせる場が必要。大屋根に囲まれた広場は、非常時には避難場所に、イベント用設備が災害用インフラに役割を変え、町の頼もしい存在に。

4

大小のサーキュレーション



人の活動が見える町は、地域の魅力や期待感を高めます。公園内の人の流れが駅や交通広場の機能とひとつながりとなって、町に人の賑わいが溢れる風景をつくりたい。

いつ来ても見つけれられる自分のstage

□屋根(園路)

・夏季の卓越風を積極的に取り入れる形状とし、芝生広場や屋外遊具スペースの利用者に対して暑さに配慮した計画。 他-6

・交通広場と同様意匠の屋根を計画し、駅西口との連続的な景観を形成。 園路-2 他-2 他-5

□園路

・屋根の下に沿って配置し、陽射しや雨を避けて交流拠点内を移動可能な計画。 他-6

・車道と園路の境界には植栽を配置し、交通動線とは切り離された安全な歩行空間。 園路-1

・駅周辺で想定されているヘルスロードを交流拠点内の園路に組み込み、ウォーキングコースとしての役割を兼ねる計画。 園路-4 他-4

・足元灯を設置し、夜間でも安心して利用できる歩行空間として整備。 他-1 他-7

□植栽

・常陸大宮市内の里山から草木を移植し、地域の四季の移ろいを感じることができる環境を整備。

・隣地境界には植栽を配置して周辺民家へ配慮。 植栽-3 植栽-4

・外周部に計画された植栽を照明で照らし、立面によって施設全体の明るさ感を効果的に確保する計画。 他-1 他-7

・植栽エリアと公園エリアの境界にはベンチを計画。木陰の落ちる心地よい環境の中で休憩できるスペースを整備。 植栽-1 他-6

□親子スペース

交流-1 交流-2 交流-3 交流-5

・芝生広場に面したデッキスペースと一体的に利用可能な計画。

・Wi-Fiや充電スポットを整備し、利用性の向上に配慮。

□多目的スペース

交流-1 交流-2 交流-3 交流-6

・カフェは多目的スペースとシームレスに連続した空間とし、利用者の増減に対応しやすい計画。

・地域情報の情報発信やプレゼンテーションとして壁面を活用。

・誰でもトイレ、おむつ替えスペース、授乳室等を設置し、子育て世代等、幅広い利用者のニーズに対応。 交流-4 他-3

・市道10181線に面したテイクアウト用のカウンターを設ける計画とし、駅舎や交通広場、周辺の主要公共施設からのカフェのアクセス性、利便性に配慮。

□防災機能

防-3 維持-1

・防火防水水槽は火災時の円滑な利用を考慮し、消防車の進入が容易な屋外イベントスペース付近に配置。

・水槽は埋設型とし、周囲の景観に配慮。

□植栽

植栽-2 維持-1

・隣地境界には施設建物外のバックヤード動線や植栽のメンテナンスを考慮した保守用通路を設け、施設管理者や植栽の維持管理に配慮した計画。

□園路 園路-3

・アクセス性・利便性に配慮し、新駅舎や交通広場の近い位置に園路を配置。

□防災機能 防-1

・かまどベンチを計画し、災害時に火元としての利用を想定。

□芝生広場

・平坦な面をまとめて中央に配置し、利用者の様々な活用(例:ヨガ、ラジオ体操等)を許容するスペースとして計画。 芝-1 芝-2 芝-3 他-3

・広場と歩道の接する辺にはベンチを配置し、視覚的には連続した見え方としつつも、ボール利用などの安全面に配慮して広場スペースと交通スペースを柔らかく仕切る計画。 芝-3 他-3

□防災機能 防-1

・マンホールトイレを計画を災害時に対応可能な計画。

□防災機能 防-2 他-3

・キャンプなどのイベントを通して防災に関する啓発や地域の安心・安全の基盤づくり。

□交流施設

・車椅子に配慮したバリアフリー通路。

□親水施設

・維持管理の容易なドライ噴水を計画。芝生広場と連続した計画とし、噴水を使用しない期間は広場と一体的に活用。 親水-3 維持-1

・可能な限り井水を利用し経済性に配慮。 親水-2

・小さな子どもでも楽しく水遊びができるよう滅菌処理を施す計画。 親水-1 他-3

・夜間のライトアップを検討し、景観の演出に配慮。 親水-4

□交流施設

・交流施設のうち市民が利用するスペースは、広場や屋外遊具スペース側などから内部の活動が見える計画。
・まちづくりに関する勉強会や打合せなどの議論の場としてスペースの活用がなされることで、広場側の利用者も間接的に学びの機会を得ることができ、地域のまちづくりに対する機運醸成に寄与。

□イベント広場

・安全対策を兼ねたベンチにインフラ(電気・給水)を組み込み、キッチンカーの出店に配慮。 イベ-1 イベ-2

・駅や交通広場からも視認しやすい位置に配置し、賑わいの創出を考慮。 イベ-3

□公衆トイレ WC-3 WC-4

・トイレは屋根の下に計画し、各施設利用者が雨にぬれずに利用可能な計画。
・屋根は日差しを透過し、自然換気を促す計画とすることで、明るく清潔なスペース環境を整備。
・芝生広場や園路に面し、死角がなく見通しの良い計画。

□公衆トイレ

・見通しが良く、交流拠点内の利用者の手洗いのしやすさに配慮。 WC-3 他-5

・男女共用トイレを設置し、ベビー用の便器を設置するなど、多種多様な利用者のニーズに対応。

・授乳スペースを設置し、子育て世代の利用に配慮。

WC-1 WC-2 他-3

□公衆トイレ/植栽

・冬の卓越風を抑制し、芝生広場で遊ぶ利用者に配慮。

□駐車場

・交通広場の配置と対照の位置に出入り口を設け、駅を利用する歩行者・家用車・バス・タクシーに対する混雑の影響を避けた円滑な交通機能維持に配慮。 駐車-3

・合計10台の駐車スペース。車いす利用者に配慮し、うち専用駐車スペースを2台計画。 駐車-1 駐車-2

□植栽 植栽-3 植栽-4

・道路境界には植栽を配置して利用者の安全性に配慮。

□屋外遊具広場

・幼児、児童向けの遊び場を設け、小さい子どもでも安心して遊ぶことができる場。 遊具-4 他-3

・インクルーシブ遊具を配置し、性別・年齢・言語や能力によらずに遊ぶことができる計画。 遊具-1 遊具-2 他-3

・床は弾性のある材料を使用し、利用者の安全性に配慮。 遊具-5 他-3

・極力シンプルなデザインの遊具を採用し、時代を経ても楽しく利用することができるものを配置。 遊具-3 遊具-4 他-3

・遊具を照明で照らし、施設全体の明るさ感を効果的に確保する計画。 他-1 他-7

□遊具広場大屋根

・屋根材は中央に陽射しを透過する材を使用。自然換気を促すスリットを設け、夏場の暑さに配慮した明るい空間を計画。 大屋根-1

・屋根軒先周りの屋根は駅や駅前広場の意匠と同様のものを採用し、駅周辺全体の景観に配慮。 他-2

□サイン設計 サイン-1 サイン-2 サイン-3

・「ユニバーサルデザイン(UD)サービス・情報ガイドライン」に沿った計画とし、ひらがな表記やイラストなどを効果的に用いることで、訪れた全ての人にやさしい空間を実現。

・駅、駅前広場、交流拠点で統一的で連続的な案内サイン計画を行います。器具の高さを抑えることで、見通しの良い安心安全な空間を計画。

・個々のサインが相互に補完された配置を計画。

設備対象	凡例	要望事項
交流施設	交流-1	カフェ機能+多目的(地域交流・子育て支援・生涯学習など)空間。
	交流-2	広場に面し、子どもたちを遊ばせながら、休憩や交流活動ができる場。
	交流-3	地域交流・子育て支援・生涯学習など、多目的に利用できる施設。
	交流-4	バリアフリートイレやおむつ替えスペース、授乳室など、家族連れや障がい者の利用に配慮。
	交流-5	Wi-Fiや充電スポットなどを整備し、駅利用者を含めた利便性の向上に配慮。
	交流-6	地場産食材の活用や市の特色などを市内外に発信する場。
トイレ棟	WC-1	男性、女性、多機能トイレ、男女共用トイレを設置し、多種多様な利用者に配慮。
	WC-2	ベビー用便器やおむつ替え、授乳スペースを設置し、子育て世代の利用に配慮。
	WC-3	見通しの良い場所に設置し、死角のない安心安全な環境。
	WC-4	明るく清潔感がある、利用しやすい施設。
遊具広場大屋根	大屋根-1	テント等の屋根を設け、夏場の日射遮蔽等に配慮し、遊具を覆うように計画。

設備対象	凡例	要望事項
遊具設置	遊具-1	インクルーシブ遊具、ふわふわドームの設置を計画。
	遊具-2	複合遊具1式以上を設置。
	遊具-3	その他概算工事費の範囲内において個別遊具を計画。
	遊具-4	幼児、児童向けの遊び場を設け、小さい子どもでも安心して遊ぶことができる場。
	遊具-5	クッション性のある床材とし、安全な遊び場を整備。
芝生広場	芝-1	裸足でも遊べる芝生の広場を計画。
	芝-2	市民の交流や憩いの場として、様々なイベントや活動に利用。
	芝-3	活動エリアを明確化。
親水施設	親水-1	小さな子どもでも安全に水遊びができる施設を計画。
	親水-2	敷地内に存在する井戸の活用を検討。
	親水-3	噴水としても機能し、市民の憩いの場として整備。
	親水-4	夜間のライトアップを検討し、景観演出にも配慮。

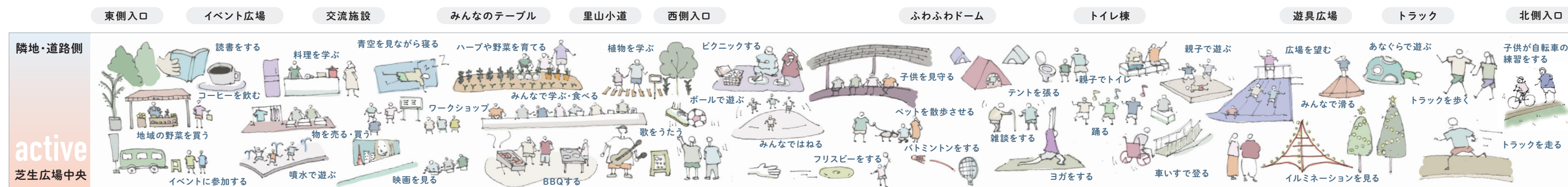
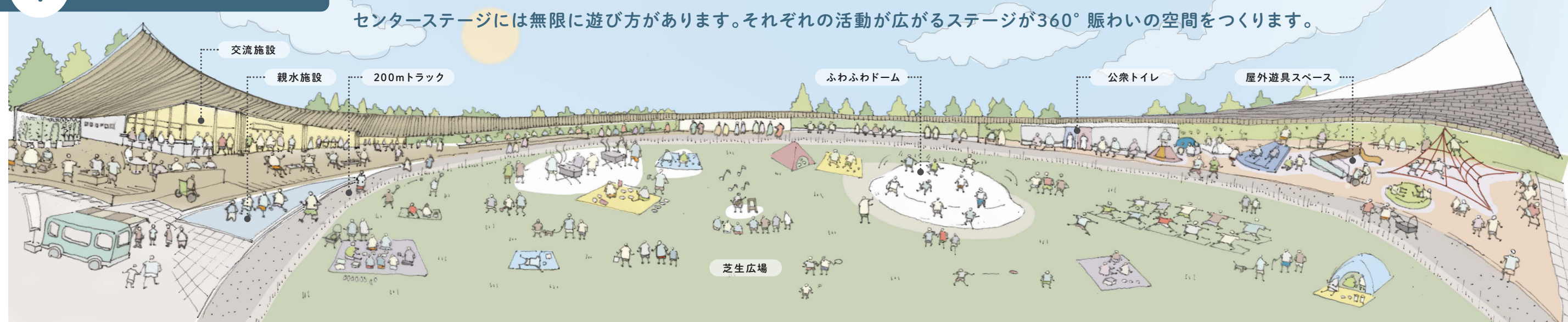
設備対象	凡例	要望事項
防災機能	防-1	かまどベンチやマンホールトイレ等、災害時に対応できるものを計画。
	防-2	防災訓練などを通じて、防災に関する啓発や地域の安心安全の基盤をつくる。
	防-3	防火水槽の設置を検討。
サイン	サイン-1	ユニバーサルデザインを取り入れ、景観に配慮した計画。
	サイン-2	駅や広場と統一的なデザインとし、駅西口の景観に配慮。
	サイン-3	効果的なサインの設置を計画。
園路	園路-1	駅前広場、周辺道路との歩行者動線に配慮した計画。
	園路-2	回廊等、駅西口との一体的な景観形成を図る。
	園路-3	新駅舎や駅前広場からのアクセス性、利便性に配慮。
	園路-4	ヘルスロード計画と連携し、ウォーキングコースとして歩道を整備。
植栽	植栽-1	利用者が休憩する木陰ができるように計画すること。
	植栽-2	清掃活動や手入れについて、管理運営の方法を検討。
	植栽-3	限られた空間の中での樹木の配置。
	植栽-4	周辺の施設や隣接地などへの影響を留意した植栽。

設備対象	凡例	要望事項
駐車場	駐車-1	歩行者動線に配慮した駐車場(10台程度)を計画。
	駐車-2	周辺の公共施設の駐車場を活用した計画。
	駐車-3	歩行者動線に配慮した駐車場を配置。
イベント広場	イベ-1	移動販売車が出店できるスペース(電源、水道設備を含む)を計画。
	イベ-2	駅前広場の近くを整備し、日常的な小規模イベントを開催。
	イベ-3	駅利用者を含めた集客に配慮し、駅前のにぎわい創出の場として計画。
維持管理	維持-1	公園の維持管理の低減。
	他-1	周辺環境に配慮した夜間でも安心安全な公園を計画すること。
その他	他-2	駅舎、西口駅前広場と空間の連続性を持つよう計画すること。
	他-3	若者や子育て世代にとって魅力ある公園、子ども安心して育てることができる環境。
	他-4	新駅舎、西口駅前広場、駅西側に集積する行政施設などとの連携。
	他-5	園内各所にベンチやパーゴラ(屋根付きの休憩所)、手洗水飲み場などを整備。
	他-6	屋根や木陰により日射対策を考慮し、休憩や交流の場として活用。
	他-7	外灯や足元灯により、夜間でも安心して利用できる施設。

※参照元:常陸大宮駅西交流拠点整備計画概要、常陸大宮駅西交流拠点基本計画

子どもはもちろん、“大人も楽しい”遊び場をつくります

センターステージには無限に遊び方があります。それぞれの活動が広がるステージが360° 賑わいの空間をつくります。



様々なレクリエーションに利用可能なアウトドアヤード

大人もはしゃぐBBQ

・広場のBBQスペースで近隣住民や新たに常陸大宮に転居してきた人などの交流を促します。交流施設と連携することで大規模なイベントにも対応します。例えば、ミニ菜園の野菜やマルシェ等の食材を調理するなど、交流拠点の機能を循環させることで賑わいを一体的につくります。

芝-2 他-3



遊びから学ぶ防災対応

・BBQなどの遊びを介して防災時に利用する「かまどベンチ」を利用するなど、防災に触れ合うことで緊急時に対応できる準備を日常で体験します。

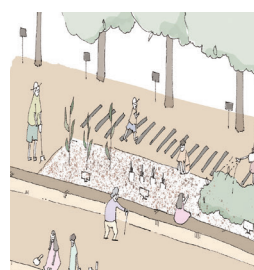
防-2



みんなでつくるミニ菜園

・地域の人々で育てたい植物を耕します。ローズマリーをBBQで使用したり、野菜でサラダをつくったりする中で得た育て方の工夫等をみんなで共有します。

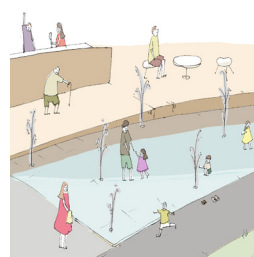
交流-3 他-3



子どもと楽しむドライ噴水

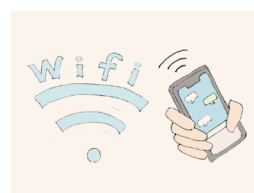
・ドライ噴水は子供たちの楽しそうな声を交流施設、イベント広場へと広げ賑わいを演出します。ライティングを計画することで景観を演出します。

親水-3 親水-4



様々なイベントに対応するためのWi-Fi環境

・公園内全域でWi-Fi環境を整えることで日常時の利便性はもちろん、緊急時には避難してきた市民にネットワーク環境を提供することも想定します。

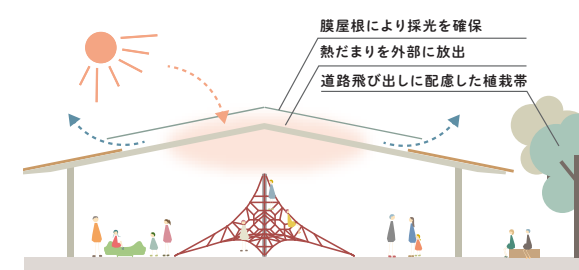


大人も子どもも楽しい“インクルーシブ”なプレイヤード

誰しものが安心して子供を遊ばせられるくつろぎの場

・遊具を見渡せる位置にベンチを設けることで、親が安心してくつろぎながら子供を見守れる配置とします。3～6歳までの小さな子供が遊ぶエリアと、6歳以上の子供が遊ぶエリアを分ける遊具配置とすることで、体格差によるけが等を防止するように計画します。

遊具-4



子供の想像力をふくらませる遊具を選定

・インクルーシブな広場として、多様な人々どのように遊ぶかを考えるきっかけとなるような遊具選定とします。例えば、ブランコや滑り台のような使い方の明確なものを避け、子供たちが積極的に遊び方を想像する遊具を選ぶことで、誰とでもいつまでも遊べる遊具広場をつくります。

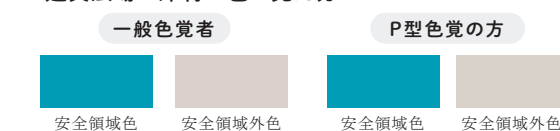
遊具-1

視認しやすい遊具と床材の色彩選定

・遊具の色は遠くからでも認識しやすい明るい色味の遊具を選定します。床材の色は、安全領域を明確にすることで安全性に配慮した彩色とします。また、P型色覚の方からの見え方が近い色を選定し、視覚過敏の方に配慮した彩色とします。



□遊具広場の床材の色の見え方



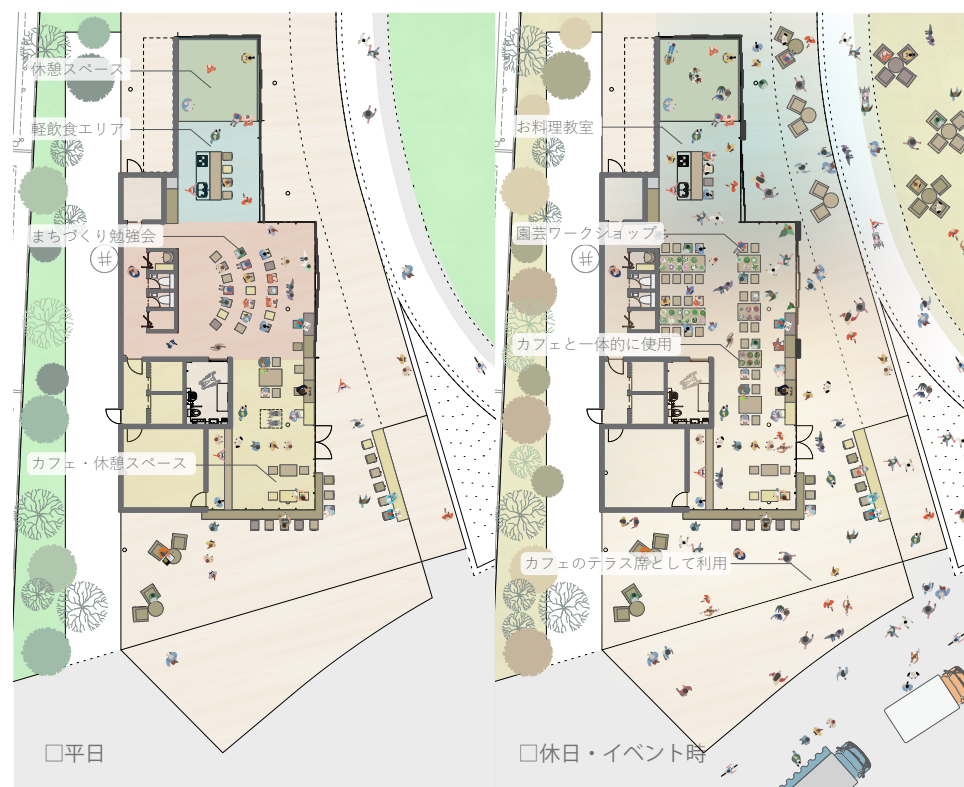
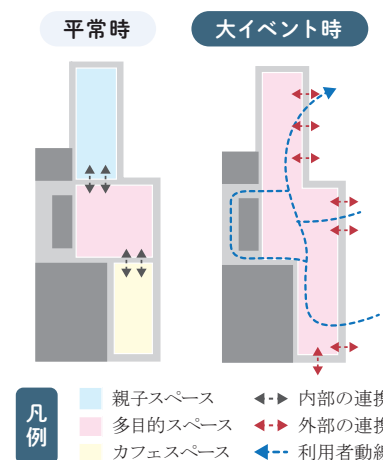
街の誰もがココで過ごしたくなるような多様な居場所をつくります。



大小イベントに対応できる交流施設

利用人数に合わせて組み合わせ可能な施設プラン

- 交流施設は、親子スペース、多目的スペース、カフェスペースと、3つの大きさの異なるスペースから構成されます。それぞれ特徴をもったスペースで組み合わせることで、利用者に合った多様な使い方を選択できる施設を提案します。



親子で触れ合う小空間

乳幼児や賑やかな場所が苦手な利用者のために、ちいさな落ち着いた親子の空間を提供します。また、料理教室などのミニイベントスペースとしての利用を想定しています。

WiFi賑やかな多目的空間

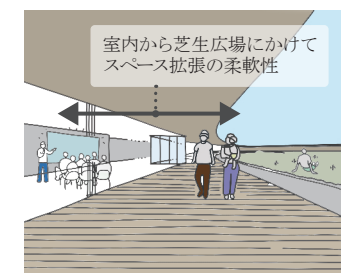
平常時は休憩スペースとして机・椅子を設え、荷物が多い子育て世代を考慮したゆとりある場所を提供します。一方で、プロジェクターを利用した交流スペースとしてのイベント利用も可能です。

ほっと一息な憩いの空間

賑わいを生む交流施設の顔として、カフェを配置しています。屋外にはイートインカウンターとテイクアウト用カウンター、内部にはテーブル席を確保しています。

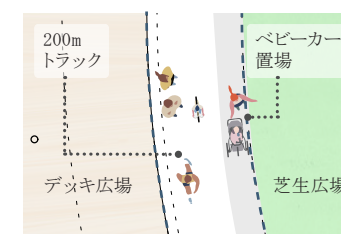
幅広い使い方を受け入れるデッキ広場

- デッキは園路の一部として計画し、平常時は園内の歩行者動線として、イベント時には交流施設と芝生広場のスペースを結ぶ中間領域として機能します。デッキ上部は深い軒がかけられ、施設内でのイベントを屋外側に向けて拡張させ、広々とした場の利用も可能な計画とします。



芝生に沿ったトラックリング

- 芝生広場の周りにはリング状の通路を配置し、自転車の練習やランニングが可能な計画とします。
- 芝生広場に沿ってベビーカー置き場を配置し、利用者の流動に十分に配慮した計画とします。



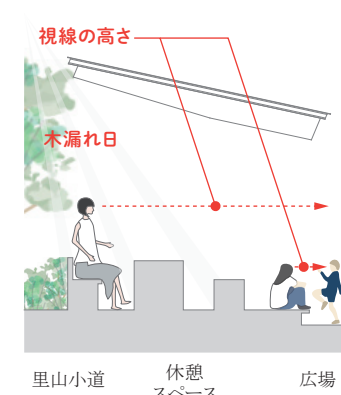
ニーズに合わせて選択できる移動可能な家具の充実

- 交流施設には移動可能な椅子・テーブルなどの什器を配置し、大小のイベントにフレキシブルに対応する計画とします。
- 室内外の什器を移動可能なものも計画し、滞在場所を選択できる場づくりに配慮します。
- パラソルやテント等の保管場所を設け、芝生広場との一体的な利用が可能な計画とします。



木陰の中の休憩スペース

- 里山小道と広場エリアの境界にはベンチを計画し、木陰の中で休憩できるスペースを整備します。
- 一体整備されたテーブルに向かい合って複数人で休憩したり、施設や遊具から離れて1人の時間を楽しめる休憩の場を計画します。
- ベンチはふわふわドームや遊具広場前に配置し、子どもの見守り時に滞在できるスペースとします。



自然環境に対応し、居心地の良い場をつくる屋根形状

- 夏場は西日や南側の強い日射を、冬場は北西からの冷たい風を防ぐように適切な軒の長さや勾配を計画し、居心地の良い環境をつくります。
- 深い軒は外部日射からの環境負荷を削減し、ランニングコストを削減します。
- 交流施設は北側の芝生広場に向かって上る勾配屋根とし、利用者の滞在スペース上部で排熱、温熱環境を整えます。



市民の誇り、心の拠りどころとなるような
安全・安心な場をつくれます。



大屋根によって生まれる、安全でわかりやすいゾーニング

- ・大屋根から敷地境界の範囲にかけて植栽を配置し、利用者と交通動線の明確な分離、また周辺民家への配慮とします。
- ・植栽による緑の帯は、日常時には憩いや防音効果、災害時には延焼を妨げる効果が期待できます。

他-3



防災時限定ゾーニング

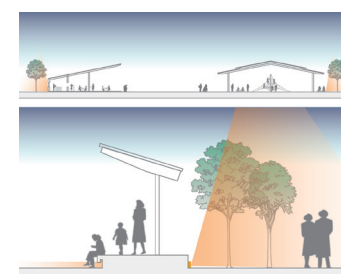
- ・災害時にはかまどベンチ周りや交流施設を『炊出し・災害情報共有エリア』、公衆トイレ周りを『非常用トイレエリア』、芝生広場北側をテントサイトとして『帰宅困難者受け入れエリア』とし、災害時の利用を想定したゾーニングとします。



地域の安心を育む『あかり』をつくる

- ・心地よい明るさによって生まれる交流拠点や交通広場の計画では、人が滞在するスペースや機能・安全上必要とされる箇所など、エリアを強調する照明計画とします。夜間も人の存在や賑わいを感じる、安心して利用できる場づくりを目指します。

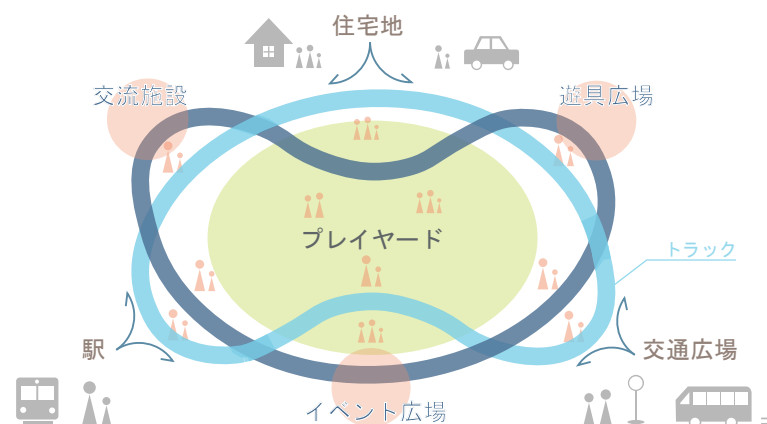
他-7



人の流れを促進する2つの輪によって、エリア全体の活動を活性化させます。

小 交通広場と交流広場が一体化した『新しい駅前広場』

- ・公園内は交流施設とプレイヤードを核に小さなサーキット（環状動線）を計画し、その周囲にその他のアクティビティを配置します。公園内で最も注目されると考えられるプログラムをつなぐ位置にサブとなる機能を配置することで、施設内のプログラム全体の利用促進を狙うものです。
- ・大きなサーキットで地域の一大資産である駅と交流拠点を一体化することで、駅周辺エリアを活性化する“賑わいの循環”を実現します。



大 ヘルスロードを取り込み、東西の連携を強化するルート設定

- ・駅周辺で計画されているヘルスロードを交流拠点の園路に組み込み、ウォーキングコースとしての役割を兼ねる計画です。園路の床は歩行感が良く、利用者の身体（足等）にやさしい素材を採用し、段差によるつまづきがない計画にする等バリアフリーに配慮します。
- ・交流拠点にルートが組み込まれることで、駅東側に位置する医療・福祉エリアとの関わり合いが生まれ、子育て世代（予備世代を含む）と医療施設利用者との交流のきっかけが生まれることを期待しています。

園路-4

